

福 祉

1 学習指導と評価における課題

中央教育審議会による「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（平成28年8月）において、職業に関する各教科・科目の課題については、次のようになっている。

各教科の指導を通して、関連する職業に従事する上で必要な資質・能力を育み、社会や産業を支える人材を輩出してきたが、科学技術の進展、グローバル化、産業構造の変化等に伴い、必要とされる専門的な知識・技術も変化するとともに高度化しているため、これらへの対応が課題となっている。

総務省の発表によると、教科「福祉」が新設された平成11年の我が国における高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）は16.7%であったが、その後、平成27年には26.7%まで上昇している。こうした少子高齢化の急速な進展に伴い、地域における自立生活支援への志向や福祉ニーズへの多様化など、社会福祉に対する国民意識の変化に対応し、多様で質の高い福祉サービスを提供できる人材を育成することが求められている。

そのため、社会福祉に関する知識や技術を、断片的に学習させるのではなく、社会福祉施設の見学、実験・実習、調査研究、日常的な実践活動などの実際の・体験的な学習を通して、活用できる知識と技術を総合的に身に付けさせることが大切である。

また、生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導方法等について工夫改善を図っていくことが重要である。

2 育成すべき資質・能力を踏まえた学習指導・評価の改善・充実

(1) 教科において育む資質・能力を踏まえた指導の改善・充実

職業に関する各教科においては、専門的な知識・技術の定着を図るとともに、多様な課題に対応できる課題解決能力を育成することが重要であり、地域や産業界との連携のもと、産業現場等における長期間の実習等の実践的な学習活動をより一層充実させていくことが求められている。

また、「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」においては、育成を目指す資質・能力として、①生きて働く「知識・技能」の習得、②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養、の三つの柱が示されている。

学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、求められる資質・能力を身に付け、能動的に学び続けることができるようにするためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた不断の授業改善が必要である。

(2) 学びの過程を重視した単元の指導と評価の計画

教科「福祉」は9科目で編成されている。そのうち、科目「社会福祉基礎」は、より専門的な学習への動機付けや卒業後の進路についての生徒の意識を高めることを目的として、基礎的・基本的な内容で構成されており、福祉に関する学科における原則履修科目となっている。

ここでは、科目「社会福祉基礎」の単元「(4) 生活を支える社会保障制度 エ 高齢者福祉と介護保険制度」で、高齢者を理解し、暮らしやすい環境づくりを考える学習活動例を示す。

教科目	社会福祉基礎	履修学年	2 学年			
単元名	(4)生活を支える社会保障制度 エ 高齢者福祉と介護保険制度					
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の老化の特徴を理解し、心身ともに自立して暮らすことの重要性について理解させる。 ・利用できる社会保障制度や社会参加の形について理解させる。 					
次 程	ねらい・学習活動	評価の観点				評価方法と規準
		関	思	技	知	
第1次 (1時間)	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○老化の特徴や健康について理解させる。 ○高齢者の社会参加について理解させる。 <p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆身近な高齢者を想像し、老いることでの不便さを理解するとともに、老化には個人差があり、高齢者であっても、生涯学習や社会貢献できる場所が求められていることを理解させる。 	習得				ワークシート 小テスト 【評価規準】 老化の特徴や健康についての知識に基づき、その不便さを理解し、生涯学習や社会貢献の場について理解する。 [知識・理解]
第2次 (2時間)	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者にみられる疾患を体験し、日常生活に存在する課題・支援方法について考えさせる。 <p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆白内障を患う高齢者の体験を通して、日常生活に存在する課題を見つけさせる。 ◆高齢者の日常の課題に対して、どのような支援が必要かを考えさせる。 	活用	○	○		ワークシート 【評価規準】 体験活動を通して、日常生活に存在する課題を見つける。 [関心・意欲・態度] 白内障患者の生活課題を考える。 [思考・判断・表現]
第3次 (2時間)	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体験活動から新しいものを創造する能力、活用できる技術・知識を身に付ける。 <p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆高齢者体験を通して気付いたことから、広く「住みよい街づくり」、「暮らしやすい環境」について具体的に考えさせる。 	探究		○	○	ワークシート 【評価規準】 高齢者の生活を改善・工夫することを考え、新たなサービスを創造する能力を身に付ける。 [思考・判断・表現] ワークシートを丁寧に記入し、完成させる。 [技能]

福祉科の目標においては、人間としての尊厳の保持やプライバシーの尊重など自立生活を支援する態度の必要性を重視している。また、専門的な知識と技術の上に、「心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように支援する」という社会福祉の理念と意義を理解させることが重要である。その例として、単元計画の第2次、第3次の展開例を示す。

<展開例> ～白内障の方が見ている世界

「住みよいまちづくり」「暮らしやすい環境」を考える～


	学習内容	評価の観点
第2次 (活用)	<ul style="list-style-type: none"> 白内障の見え方の体験 	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動を通じて、日常生活に存在する課題を見い出す。 <p>【関心・意欲・態度】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 心理状態・感じた不自由さをまとめる。 支援方法について考える。 <p>【個人活動】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自らの体験を基に、高齢者の理解を深め「住みよいまちづくり」、「暮らしやすい環境」について追究する。 <p>【関心・意欲・態度】</p>
第3次 (探究)	<ul style="list-style-type: none"> 意見を集約・発表 <p>【グループ活動】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 白内障患者の生活課題を考え、根拠ある、より良い支援方法を導き出す。 <p>【思考・判断・表現】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 発表された意見の中から検証可能なもの、生徒が興味を示したものを取り上げ、検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「住みよいまちづくり」、「暮らしやすい環境」を自ら提案することができることを体験し、社会福祉の意義や新たなサービスを創造する能力を身に付ける。 <p>【思考・判断・表現】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 検証した結果を、インターンシップや介護実習、地域で実施する。課題の分析に基づく課題解決、課題解決を踏まえた新たな取組といったスパイラルが生まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施・考察することで、活用できる知識や技術を身に付ける。 <p>【思考・判断・技能】</p> 

(3) 「アクティブ・ラーニング」の視点からの学習・指導方法の改善

ア 「主体的な学び」の視点

生徒自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。

【実践例①】

科目名	社会福祉基礎		
単元名	(4) 生活を支える社会保障制度 エ 高齢者福祉と介護保険制度		
本時の主題	白内障の方が見ている世界「住みよいまちづくり」「暮らしやすい環境」を考える		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者にみられる疾患を体験し、生活内に存在する課題・支援方法について考えさせる。 ・「住みよいまちづくり」「暮らしやすい環境」について、考察させる。 		
本時の展開	2・3時間目/全5時間		
過程	学習活動	指導上の留意点	評価方法、観点
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・白内障体験めがねを利用して、課題を体験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの配布 ・必要物品の配布 〔白内障体験めがね〕 	
展開 80分	<ul style="list-style-type: none"> ・課題をグループに分かれて行わせる。 ・体験によって感じたこと、考えたことを文章にしてワークシートに記入し、整理させる。〔個人〕 ・討議〔グループ〕 ・グループごとに発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、全員が体験できるようにする。 ・白内障がもたらす心身の不自由さを考えさせる。 ・他者の意見や価値を尊重しながら、多面的・多角的な視点で考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察【関】 ・ワークシート【思】 ・観察【関】
	<p>【白内障の方の見える世界を体験し社会生活上・日常生活上の課題と支援方法を考える】</p> <p>①白内障があることでどのような影響があるか体験する。</p> <p>②課題となることは何か。</p> <p>③必要となる支援は何か。</p> <p>【ミッション1】 多くの情報の中から指定された情報を読み取る。</p> <p>①地下鉄路線図から「銀座一丁目」を見つける</p> <p>②時刻表から「伊勢市に15:42に着くには、亀山を何時発に乗ればよいのか？」</p> <p>③文章に下線が引いてある箇所を見つけなさい</p> <p>【ミッション2】 ハサミで紙を切る </p> <p>【ミッション3】 文字を書く 「今日は、よく晴れた気持ちのいい天気でした。」</p>		
まとめ 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・体験や討議、発表を終えて、気付いたことをまとめ、発表〔個人〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の気付いたことを大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート【関】
	<p>【生徒の気付き①】 白内障の方は、カラーペーパーを活用したら字が見えやすくなるのではないかと。</p> <p>【生徒の気付き②】 目が不自由であるということは、見るだけではなく、移動にも影響が大きい。ノンステップバスの導入だけではなく、乗るまでの環境整備も必要だった。</p>		
	<p>ワークシート</p> <p>1. どのような心理状態になったか</p> <p>【自分】 【グループ】</p> <p>2. 感じた不自由さ</p> <p>【自分】 【グループ】</p> <p>3. 必要な支援</p> <p>【自分】 【グループ】</p> <p>4. 他のグループの発表から学んだこと</p> <p>5. まとめ（気付きなど）</p>		
	<p>生徒自身の気付きから学習が深められるように次時の授業を展開する。今回は、【生徒の気付き①】を取り上げ、実践例②とする。</p>		

イ 「対話的な学び」の視点

身に付けた知識や技能を定着させるとともに、多様な表現を通じて、教員と生徒や、生徒同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが重要である。

【実践例②】

科目名	社会福祉基礎		
単元名	(4) 生活を支える社会保障制度 エ 高齢者福祉と介護保険制度		
本時の主題	白内障の方が見ている世界「住みよいまちづくり」「暮らしやすい環境」を考える		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動から新しいものを創造する能力、活用できる技術・知識を身に付けさせる。 ・「住みよいまちづくり」「暮らしやすい環境」について、その具体策を検討させる。 		
本時の展開	4・5時間目/全5時間		
過程	学習活動	指導上の留意点	評価方法、観点
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・カラーペーパーによって見え方は違うのかを検証させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの配布 ・必要物品の配布 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> カラーペーパー（暖色10枚、寒色10枚）、 白内障体験めがね、サインペン、模造紙、 のり、はさみ </div>	
展開 80分	<ul style="list-style-type: none"> ・見えやすい順にランキングを付けさせる。[グループ] ・まとめ・発表 [グループ] <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【生徒の気付き】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見えやすいカラーペーパーのランキングがグループによって違うのはなぜか。 ・個人差もあると思うが、他にも何か原因があるのではないか。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>疑問の検証、発表 [グループ]</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>対話により、疑問を追求していくことで自己の考えを広げ深める。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の大きさ・太さを統一する。 ・同じ条件でグループ全員が行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察【関】 ・ワークシート 【思】 ・観察【関】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>《最終的なまとめ》（一部抜粋）</p> <p>【気付き】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・逆光や光量によっても見え方に違いがあることが分かった。 ・時間によっては、時刻表や足元が見えづらいのではないか。 <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光量を自動感知し、一定の明るさを保てる照明 ・時刻表の文字の大きさ、色、配置箇所を数カ所設けることで時間によって見えにくいということがないように工夫する。 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>「深い学び」の視点</p> <p>インターンシップや介護実習で、白内障の方と関わり、自ら考えた対応方法が実際に地域生活を送る上で生かされるのか検証する。</p> </div>
まとめ 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・「住みよいまちづくり」「暮らしやすい環境」についてまとめさせる。[個人] 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が気付いたことや学習の成果を的確に評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート 【思・技】

Topic

「社会福祉・介護福祉検定」 ～主催：全国福祉高等学校長会～

この検定は、福祉を学ぶ高校生の意識を高め、社会福祉及び介護福祉に関する知識及び技術の向上を図ることを目的とし、平成27年度から実施している。

第1回の検定は昨年12月に3級と4級が実施され、全国の合格率は、3級63.8%、4級44.9%であった。

本道では全国福祉高等学校長会加盟校7校のうち6校の232名（受験状況85.7%）の生徒が受験している。また、福祉に関する教科・科目を設置していない学校でも多くの生徒が受験できるシステムづくりを目指している。

福祉科において、就業に関わる資格検定は多数行われているが、福祉の学習が評価される検定は初めてであり、学習成果を継続的に測定することが期待されている。第2回平成28年度「社会福祉・介護福祉検定」の実施要項は次のとおりである

	4級	3級	2級
受験資格	高等学校において、教科「福祉」及びこれと同等の内容を学ぶ生徒。（第2回より受験者の対象が広げられた。）		
実施期間	平成28年12月11日（日）～12月18日（日）の期間で実施する		
問題数	二択150問	二択150問	三択150問
受験時間	50分	50分	80分
合格基準	7割程度100点以上	7割程度100点以上	7割程度100点以上
検定料	500円		
出題教科	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉基礎 ・介護福祉基礎 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉基礎 ・介護福祉基礎 ・生活支援技術 ・こころとからだの理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉基礎 ・介護福祉基礎 ・生活支援技術 ・こころとからだの理解 ・コミュニケーション技術 ・介護過程

第1回「社会福祉・介護福祉検定」過去問題より

<問題例>（○、×で回答する。）

3級 ①「自助」とは、自ら努力して働いたり、収入を増やしたりして、問題を解決することをいう。 A, ○

②ベッド上で便器で排せつする場合は、便器の上でからだ安定するように仰臥位にし、膝が屈曲した状態とする。 A, ×

4級 ①日本の人口は、第二次世界大戦後の1948年には、約8000万人であった。 A, ○

②高齢になると聴覚では、低音部の聴力の低下が目立つ。 A, ×